

～感動の卒業式～未来への扉を開く一步を踏み出す

山河在り

東陽中学校だより

平成二十八年年度第四号

平成29年3月22日
文責 米村

四十八回目の式で新たな東陽中の歴史が誕生

三月十一日、晴れ渡る空の下で十五名の卒業生が思い出の校舎に別れを告げ、東陽中学校を旅立って行きました。

担任の木本先生が行う氏名点呼に大きな声で答え、堂々と卒業証書を受け取る姿に三年間の成長を感じました。送辞を述べた生徒会長佐々木美芳さんは、卒業生への感謝と尊敬の気持ちを切々と語りかけるもので、落ち着いた態度で見事に大役を果たしてくれました。

卒業生代表としてステージに立った上村麻桜さんの答辞は三年間の中学校生活を思い出深く振り返り、関わっていた人々への感謝を込めたものでした。昨年、送辞の際には早くから涙があふれましたが、今回の答辞で最後に「このクラスが大好きです。」と締めくくった時の涙も忘れられないものになりました。

全員合唱や校歌斉唱で卒業生を支える在校生の歌声は体育館中に響き渡り、卒業式の感動を高めてくれました。



生徒会長佐々木さんによる「送辞」。卒業生を前に切々と語りかけ、感謝と尊敬の気持ちがしっかりと伝わりました。



上村さんによる「答辞」。3年間の思い出が詰まった感動的なもので最後に涙が光りました。



卒業生一人一人が、氏名点呼に大きな声で答え、堂々と卒業証書を受け取りました。男子11名、女子4名の個性豊かであたたかいクラスでした。東陽中48回目の卒業生として、新たな歴史を刻んでくれました。



本校校区での主な実践例

- ・校訓、学校教育目標等の統一化
- ・合同職員会議や合同授業研究会の実施。
- ・児童会と生徒会の共同企画による4月対面式。
- ・小中合同運動会の開催(平成29年度より5月開催へ)
- ・伝統文化学習を総合的な学習の時間に小中学生が縦割りで実施。秋の「東陽町文化の祭典」で学習成果を発表。
- ・中学校教師による小学校乗り入れ授業の開催。(英語、音楽、理科、体育など複数教科で実施)



東陽中学校の卒業式に東陽小学校より6年生の児童と藤井先生・高木先生が参加して下さいました。代表して「お祝いの言葉」を述べる大方さん。

裏面もご覧ください

「小中一貫・連携教育」の成果が積み重なる地域に支えられ、新たな取組にも挑む

今年度も東陽中学校と東陽小学校は、八代型小中一貫・連携教育に基づいて様々な取組を積み重ね、大きな成果を残してきました。上記の記事で紹介した第四十八回の東陽中学校卒業式に、東陽小学校の六年生児童が参加し共に歌声を響かせてくれたこともこの取組の一つです。

三月二十三日に挙行される東陽小学校の卒業式には、東陽中学校の二年生が参加する予定です。

八代市では小中一貫・連携教育を「一体型(一校区)」「隣接型(四校区)」「校区型(十一校区)」の三タイプに分けそれぞれの校区に応じた取組の推進を進めてきました。本校は東陽小学校との距離が二キロ弱離れており「校区型」に属します。校区型の中で最も小中一貫・連携教育が実践され、成果を残しています。

熊本県下では、「小中一貫・連携教育」の最終段階とも言える義務教育学校が、平成二十九年四月より、高森東小学校と高森東中学校により、高森東学園義務教育学校としてスタートする予定です。小学校六年間・中学校三年間の教育課程も変更され、独自のカリキュラムで義務教育のより効果的なスタイルを模索し実践されると考えられます。

～新年度の課題解決へ～ 外部委員による「学校関係者評価」を活かす

本年度も学校評議員四名を含む計七名の学校評価委員の方々より、「学校関係者評価」を実施していただきました。

二月十七日の給食時間より、一年生から三年生までの各教室で、生徒と一緒に会食を行っていただきました。久々の学校給食を味わいながら、子どもたちの会話を楽しんでおられました。その後実施した授業参観にも参加していただきました。一年生理科、三年生保健の授業に加えて、二年生は立志式を黒淵公園で開催。頂上の展望台にも足を運んでいただき、二年生一人一人の決意発表を保護者と一緒に参観されました。

評価いただいた結果を下記に紹介しておきます。七名全員の評価で「4」をいただけるよう、今後も学校総体で実践を継続していきたいと思っております。

2年生立志式
黒淵公園展望
台にて実施



1年生理科
の授業参観
は理科室に
て実施



～ 学校関係者評価 ～ 平成29年2月実施

生徒・保護者の学校評価結果を参考に、平成28年度東陽中学校経営方針の内容に沿って評価いただいた主な結果が以下のものです。

- 1 生徒・保護者と教師、生徒相互、教師相互の信頼関係の強化 7名の平均値 3.4
 - 2 学校や地域に対する誇りをはぐくむ教育 7名の平均値 3.9
 - 3 学校組織としての教育力の高揚 7名の平均値 3.1
 - 4 人権尊重の視点に立った教育実践 7名の平均値 3.3
 - 5 指導力、授業力の向上 7名の平均値 3.4
- ※ 評定の基準 4:目標を十分に達成、3:ほぼ目標を達成、2:やや不十分、1:改善を要する

それぞれの項目への講評もいただいております。詳細な内容は東陽中学校のホームページに掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

新学年に向けての準備はできているか？

三年生が卒業し、二十五名となった東陽中学校ですが、四月になると新入生を迎え全校生徒三十五名で平成二十九年度がスタートする予定です。

それぞれ学年が上がる準備はできていますか。心・体・頭の準備をしっかりと行い、最初からつまづくことがないようにしましょう。入学式では新入生を迎えます。最上級生、先輩として東陽中学校生徒の模範を示さねばなりません。心にスキをつくらぬよう、自らの生活を引き締めて春休みを送りましょう。

二十九年度は運動会が五月開催となります。小学生から注目される合同運動会です。各自、昨年の自分を超えられるように、トレーニングに励みましょう。

現二年生・一年生は昨年の十二月に実施した県学力調査の結果が優れていました。全ての教科・項目で県の平均値を上回る結果を残しています。四月に実施する学力テストに期待がかかります。国・社・数・理・英の授業で習得した一年間の学習内容を、自分の頭でしっかりと整理しておきましょう。

人間の脳は自分の興味関心が高いものはずぐに知識として理解し覚えていきます。ICT機器やゲームの操作に当てはめ考えると納得するはず。勉強も工夫して粘り強く取り組みましょう。



<http://jh.higo.ed.jp/toyojhs/>

東陽の豊かな自然の中で

卒業式を目前に控え、子どもたちが体育館で式の練習に集中し、歌声を響かせていた時の事です。体育館横の川べりで、罨に足を取られて逃げきれなくなつた一頭の鹿を捕獲する作業が、地域の方の見事な連携で無事に実施されました。大きな体に立派な角を持つ雄鹿でした。

子どもたちの活躍が光る

昨年の暮れには、体育館から武道場へつながらる渡り廊下をとても小さな野ネズミが2匹走り回っていました。部活動の練習が終わって体育館から出てきた生徒たちも目撃し、そのかわいさに盛り上がっていました。

さすが東陽中の生徒です。ネズミに触れることなく、しっかりとその様子を観察していました。理科の木村先生が「珍客」の写真を撮影してくれました。



最後までご覧頂きありがとうございました。